



文科省メディアセンターの大橋先生がバリにヴィラを建てられ、お誘いを受けて、30年ぶりにバリ島を訪問した。大橋教授は文字通りのマルチ人間で、脳のメカニズムの世界的権威者であると同時に、芸能山城組の活動を通じ、音楽の世界でもその名をはせておられる。若い世代

にはアニメの「アキラ」の交響組曲の作曲者としても知られる。

私はバリには過去二度訪問したことがある。いずれも空港に到着するや激しい花粉症に悩まされ観光どころではなかった。月日も流れ私の体質も変わっただろう、ということで、公園に美しく整備化されたと聞くボロブドールの観光も兼ね、無理矢理時間をつくって、八月の終わりにいそいそと飛び立った。

大橋教授の話によれば、バリの文化・芸術は水を分配する儀式から始まるという。バリ島の中心にはバツール山が聳え、そのカルデラに大量の水を蓄えている。カルデラの水は、伏流水となって山の麓二カ所に泉を湧き出させる。泉水は火山の養分・ミネラルを含み全島の田圃を潤す。山の頂にはバリ第一の神が備わり、懇々と湧く泉の傍らにも第二の神が宿る。分流水にもそれぞれの分水神が宿る。



それぞれの神と一体となってバリの芸術は生まれ育ってきた。第二の神、スバトゥの泉水をいただいてにわか仕立ての茶会を催す。傘亭にもにた東屋で、水差しは木彫りの鳥、バナナの葉を葉蓋とし、水牛の匙を湯杓に見立てる。椰子の木をくりぬいた茶碗で濃茶・薄茶を楽しみ、持参の夜光石の小椀で煎茶を楽しむ。時は申から酉にさしかかり、夕暮れの帳が「囲い」を作る。清々しい茶の湯だった。

